硬膜外無痛分娩について

当院では、現時点では希望による硬膜外無痛分娩は行わないこととしています。

まず、痛みを緩和する方法には、
① 硬膜外麻酔（麻薬も用いる）
② 麻薬の一種を注射する麻酔
③ リラクゼーションや呼吸法での緩和
④ マッサージやホットパック等による緩和
上記とは別に、その他として、
⑤ 陰部神経ブロックや傍頸管ブロックもあります。

①の硬膜外麻酔は痛みをとるためには最も効果的と言われていますが、長期、短期２つの問題があります。短期は麻酔中の問題です。これまで死亡事故などが問題となり、硬膜外麻酔においても麻酔科医の管理が必要になってきました。しかし多くの病院で麻酔科医が不足しており、当院でも手術麻酔を優先していますので、お産に関わってもらう余裕がありません。また硬膜外麻酔は陣痛を弱めるので、陣痛促進剤（オキシトシン）の使用頻度や器械分娩（鉗子分娩、吸引分娩）の頻度が増え、産後は自然な分娩より痛みが強い場合があります。

もう一つは長期の問題です。海外の論文では自閉症などの発達障害が増えるという研究報告がたくさんあります。差がないという報告もありますが、その可能性はゼロではないと考えます。というのも、硬膜外麻酔中の産婦の血中βエンドルフィン濃度は、自然なお産より低いので、お産の喜びや気分の良さを減弱する可能性があり、産後うつなどに陥りやすく、母子関係に悪影響を及ぼす可能性が捨てきれないからです。
硬膜外麻酔が欧米で盛んに行われるようになってまだ数十年なので、長期的な問題については、わからないことがたくさんあります。

なお、硬膜外無痛分娩について厚生労働省にお尋ねしたところ、「事故の無いように安全対策はしっかり指導していきますが、推奨しているわけではありません。長期の影響も含めて結果は選んだ本人の責任です」との解答でした。

②は麻薬を用いるには厳重な手続きが必要であるため使いづらいことと、子どもが大きくなってから薬物中毒に陥りやすい、という過去の報告があるため通常は行いません。

③や④は何千年も前から受け継がれてきた手法であり、その効果と安全性は確立していま

す。高山赤十字では③、④を助産師がしっかりと行います。

⑤は歯医者さんの麻酔と同じ局所麻酔なので、説明したうえで必要に応じて行います。

以上の理由により、当院では、現時点では希望による硬膜外無痛分娩は行わないこととしています。
お産に対して不安のある方や無痛分娩についてもっと知りたい方は、外来でお気軽にご相談下さい。